

'95 北京非政府組織 婦女論壇 NGO Forum on Women, Beijing '95,

に行ってきました!

1995年8月30日 午後5時
北京市内のオリンピックスタジアムで
『第4回世界女性会議』NGOフォーラム
の開会式が行われました。
モンセラ NGO 議長の挨拶を初め、
各国の代表の女性たちが力強く
意見を述べるたびに、スタジアムを埋め



(From left) Peng Peiyun, Gertrude Mongella, Chen Muhua and Khurying Supet's Maadit wave to a joyful crowd of 18,000 people at the opening ceremony for the NGO Forum yesterday afternoon.



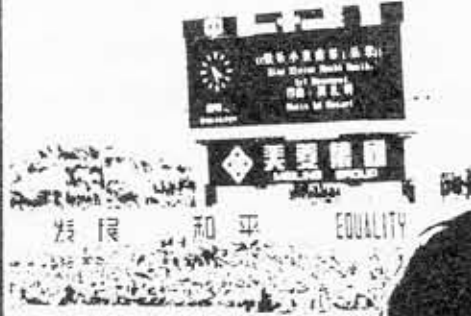
NGO Forum logo fly over the National Olympic Sports Centre.

尽くした1万7000余の女性たちが
歓声を上げ、拍手をし、会場は興
奮と熱気でどんどん盛り上がっていき
ます。そして左の写真にあるようなNG
Oの旗が空に上がっていた時、会
場の女性たちの感動はクライマックスに
達し、どよめきがおこりました。
その後、南アフリカから運ばれてきた
トーチが女性たちの手から手へと渡され



KADO Satsuki
これがIDカード
身分証明書。NGO
では常にこれと首からぶら
下げた行動しなければなら
ませんでした。
30094
（おむすびキビシイ）

いきなり会場では南アフリカの女性の歌に合わせて みんなで歌い、スタン드가揺れていました。
これこそが女の連帯。日本では女が声を上げ、自己主張すると、「女のくせに出しゃばるひ」
「恐ろしい女だ」とか言えずに足を引っ張る 風潮が
あるけど、ここではそんな威勢のいい女たちがいっぱい。
全々そんな女たちがざり。励まされました! 元気が出ま
した! そして「ばてん・うーま」の会が今までやって来たこと
は、ほんと まちがいなかったとほじほじ思いました。



世界の女たち、ありがとう!

SEX DISCRIMINATION ENCOURAGED IN JAPANESE PUBLIC EDUCATION

In Japan, it has been taken for granted that the names of boys come first and those of girls second in whatever kind of data on the students the schools maintain.

In addition, virtually in all the scenes of their school life, the Japanese children are treated differently by sex. Betraying the name of so-called "co-education", boys and girls are always separated in the lists of names, where to sit or stand, etc. The boys always come first and the girls second.

We, the members of the "Batten Women's Group", a local feminists' group in Nagasaki City, have been appealing to the management side of the local schools that the students must be treated equally regardless of their sex and that the name lists must be formed in an alphabetical order.

Don't you like to visit a school in Japan? You will be shocked to witness how strongly kept the air of sex discrimination is there, betraying the name of "co-education".

NAGASAKI BATTEN WOMEN'S GROUP

NGOフォーラムの会場で 私たちが配ったビラです。

性差別を助長する日本の公教育

日本では、学校が有するいかなる資料に於ても、男子の名が先で女子の名が後に並べられていることが当然のこととして受け取られて来ました。

それだけでなく、学校生活のほぼ全ての場面において、日本人の子供たちは性別で異なった扱いを受けています。「公教育」とは名ばかりで、名簿でも、座席・整列順まで、男子と女子は常に分けられているのです。いつも男子が先で女子は後なのです。

私達、長崎市の男女平等主義者（フェミニスト）の団体である「ばってん・うーまんの会」の会員は、地域の学校管理者側に対して、「生徒は性別に関わらず平等に扱われるべきあり、名簿はアルファベット順にするべきだ。」と主張してきました。

一度日本の学校を訪れてみませんか？「公教育」とは名ばかりで未だに性差別がありありと残っている現状を目のあたりにして、あなたはショックを受けるに違いありません。

長崎ばってん・うーまんの会

NGO開会式の翌日からいよいよNGOフォーラムが開催されました。場所は北京から車で約50分ほど郊外にある懷柔県。NGO事務局の反対にもかかわらず中国政府が中国の一般の人々から隔離するために北京市内から離れたところ。最初予定していた中国のガイドさんたちもフォーラム会場に入れませんでした。（中国政府の人権感覚はまだまだの感あり。）（身体検査もキビシク行なわれ）

会場は中学校と体育学校の敷地を「グラント」を利用して、ものすごい数のテント（ブース）がずらりと立ち並び、地図を片手に歩いたものの、そのあまりの広さに私たちはどこに何があるかよくわかりませんでした。あふれんばかりの女たちが、集まり、しゃべり、笑い合い、討論したりとわきあいあい。どこを見ても皮膚の色も、目の色も髪の色も、そして着ている服もさまざま（結構民族衣装が多かった）。ただ女であるという共通点をもった人たちが熱心に真剣に女性問題を論じていた。そんな中で胸は高鳴り、嬉しくなると、私たちは元気にビラまきをしました。

世界中の女たちが笑顔で受け取ってくれ、真剣なまなざしで読んでくれました。その内の1人アメリカ人女性が「日本は経済大国で発展しているのに女性は二番目（Second）なのね」と話しかけてきたので、「私もそう思う。だから私事に反対しているの」と返事をしたら「Do your best!（がんばってね）」と励まされました。ああ、やっぱり私たちは正しいことをしているんだと確信しました。



NGOに参加した本会のメンバー 葛西(Y)と門(S)の対談です。

Y: いざー 今度のNGO参加は最初から感動しっぱなしでしたね。だって北京の空港に到着するやいなや、世界の女たちがそろそろ飛行機から降りてきて、空港は女性でいっぱい。それも生き生きとした輝やく女ばかりで、「私が私である」というような個性的な顔つきとそれにマッチしたセンスの良い服装。知り合い同志が抱き合ったり旧交を暖めたりして、女の力強さが飛行場にあふれていました。そんな光景を見ただけで、胸は高鳴り、わくわくしてしまいました。

S: 私も同じ。それにホテルのロビーもNGO参加の女性がいっぱいでしたね。喫茶店に入ったらそのような女性のグループに出会って挨拶できたのがよかったですね。

Y: そう。私たちが今年の長崎市長の平和宣言（英文）を渡したら、喜んでくれて自分たちの7-7ショップの宣伝用チラシをくれました。そして一緒に写真を撮り合ったりとても楽しかったです。

S: 開会式も感動ものでした。スタンドを1万7000人もの女たちがぎっしりと埋めつくしているというだけで興奮してしまいました。自分の味方がこれだけいる、という嬉しさ。ほんと元氣百倍で感じ。

Y: そういえば、開会式でメキシコ会議の際の議長だった女性が、80歳は優に越えていると思われるのに、凛とした姿で、力強く演説した時も胸が熱くなりました。彼女が「I'm here」と何度か声を張り上げるたび、「20年の歳月を経て「私はここにいるんだ」という彼女の想いが伝わってきて、国際婦人年以降の女性運動の歴史の1つに私たちは参加していると実感しましたね。

S: ほんとそう思います。この開会式に参加できただけでも、20数万円の旅費は元取ったという感じです。（ちょっと高かったけど、だってこの金額では無理ということで「何人か若い人たちが旅行を断念したと後で聞いた。）

Y: それにしてもあんなすばらしい開会式に「長崎県女性の翼」の参加者全員と一緒に出席したかったですね。（前日の夜、急遽出席者を30人に減らしてくれと言われた時はもうほんとにパニックでした）

S: 私たちの前の席にすわっていた沖縄の人たちは何とかして全員会場に入れたんですね。

Y: 沖縄の人といえば、全員がおそろいの紅型の帽子をかぶっていてステキでした。山形はさくらんぼのアクセサリーをつけていたし、愛知県はピンクのトレーナーをおそろいで着ていましたね。私たち長崎ももっとアピールするのを事前に準備してもよかったかもしれませんね。

S: 長崎といえば被爆地ということで世界に知られているけれど、同じ被爆地の広島が「NGOフォーラムの7-7ショップで反核を訴えていました。広島県女性会議が原爆被害の写真と並べてビラ配りしたり、また核問題についてのアンケートをとったり、平和の折り鶴の作り方を教えていましたよ。私たち長崎の参加者も事前にもっと勉強会をして被爆地長崎をアピールしてもよかったのではないかしら。割部として活動しておられる方も参加していたのに、もったいないと思いました。



Y:「長崎県女性の翼」は総勢118名の参加でしたが、旅行前に世界女性会議×NGOフォーラムについての研修が1度も開かれず、この旅行の主旨をよく理解しないまま参加した人もいて、とても残念でした。ケニアのナイロビ大会(1年前)の時も日本人女性の参加者には観光気分であるという人が多いとひしひしと買ったのはまだ記憶に新しいところです。

S: だからこそ長崎県女性行政推進室が、女性問題の啓蒙に努めるなど、今回の旅行に対してももっと主体的に積極的に関わってほしいですね。

Y: 同感です。それが男女共同参画社会をめざす女性行政推進室の役割じゃないかしら。

S: それにしても出発する間際に、男性の団長が突然発表されたのにびっくり。あいた口がふさがらなかった。

Y: ほんと。女性による女性のための会議に参加するのにどうして団長が男性なの？ それに男性の参加者はたった2人で、あとの116名は全部女性なのよ。どこでどう決められたのかしら。この事はとても大事なことは。結局、私たち女性は長にはないないという思い込みがあるのではないかしら。どうしても団長が必要なら私たちで互選できるように。

S: いずれにしても 県や市の女性行政推進室は「世界女性会議」があることは10年前からわかっているのだから、中国への渡航方法とか、ビザ取得のこととか、ワークショプの出し方とか、NGOへの参加申し込み方法とか、世界と日本のNGOの状況とか、もっとさまざまな情報を提供してほ

かったですぬ。

朝日新聞

1995年(平成7年)9月24日

星期日

長崎市の高校教諭、門更月さんは、先月三十日から中国・北京で開かれた第四回世界女性会議の「NGOフォーラム」に参加した。「平和運動と同じように、これからの女性運動もアジアとの連携が必要だと実感しました」

市民団体「ばってん・うーまんの会」メンバー。各国のワークショップが並ぶ会場で、同会が取り組んでいた学校の出席簿の男女混合名簿を求める活動と日本の現状を伝えるピラを配った。しかし、同じ会場で、夫の暴力を裁判に訴えて村八分にされたインド女性の悲痛な叫びや、差別を感じながらも言えずにいる中国人の姿に触れた。

アジアが直面する現実をつきつけられ、「私たちの方が恵まれているのに、こんな混合名簿のピラをまくなんて、彼女たちに対して

Y: 今回のNGOに
参加して、10年後
はぜひ私たち
77シニアを出し
たいと決意を新
にしました。

県や市の行政
も多くの女性たち
の活発な動きを
ぜひ支援してま
いたいと思います
ね。

(→ 次号へ続く)

女性運動もアジアと連携必要

恥ずかしい」と感じた。

「でも、日本にも豊かさの陰に隠れて就職、昇進、昇格などの女性差別が残っている。男性優位という思想の下に生まれた差別のために、それぞれが努力しなくては。従軍慰安婦の問題なども、日本の女性たちの国に対する運動が必要なんだと」。次の会議では、ぜひ自分たちのワークシットプを出したいと思案中だ。



← Tシャツに注目! NGOのフォーラム会場でアメリカ人女性たちが売っていたもの。

